

通谷池

(とおりたにいけ)



全 景



東に愛媛県立「こどもの城」、北には四国屈指の「砥部動物園」が位置する

水質保全の
取り組み状況



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県砥部町

□ため池の特徴

通谷池は、石鎚山の麓にある面河ダムからの農業用水を貯留し、1250haの田畑をかんがいする大規模なため池です。

建設当時、地元の人が植樹した桜が現在は名所となっており、また周辺では動物園や東屋が整備され、湖面ではボートが楽しめます。池にはガマが生育し、夏から秋にかけては淡水クラゲを見ることができます。冬場は小鴨の飛来地となるほか、サギが数多く羽を休めているのを見ることができます。

この地域では、明和8年(1771年)の大干ばつで、水争いによる村同士の対立で死者がでるなど、古くから用水確保に苦勞していました。その後、赤坂泉が造られて、もめ事は収まったものの、依然として農業用水は不足していました。このような歴史的背景から通谷池は、宮内村と麻生村共有で寛政5年(1793年)に築造されたと言われています。

通谷池完成後、田植え時期には、通谷池と赤坂泉の用水を合わせて、伊予市、松前地区の水田を潤すことができるようになりました。

地元自治会や民間企業等が「通谷調整池環境保全推進協議会」を設立し、清掃美化活動や植栽を行い、地域のため池として大切に管理されています。

また管理者である土地改良区は、湖面に噴水施設を設置して水を攪拌し、プランクトンの異常発生を抑えるなど、水質保全にも取り組んでいます。

関連情報

赤蔵ヶ池

(あぞがいけ)



全 景



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県久万高原町

□ため池の特徴

赤蔵ヶ池は標高870mの高所の人里から離れたところにあり、自然が豊かです。周辺は雑木林に囲まれ、春は新緑、秋は紅葉、一方湖面は神秘的で深い碧色と様々な景観を見ることができ、久万高原町の自然環境保全指定地となっています。

希少な植物なども生育しており、自然環境保全の点でも、また古い歴史を持つ文化財としても大変貴重な存在です。

赤蔵ヶ池が造られた時期は定かではありませんが、古文書によれば、「鴨住ヶ池」「阿蔵ヶ池」あるいは「遊ヶ池」などと呼ばれ、1151年頃にはその原型が実在していたとされています。

また、文政年間(1800年頃)の文献には、平安時代に源三位頼政が「安曾布ヶ池(赤蔵ヶ池)」から出てきた妖怪「鵜(ぬえ)」を退治した、という記録が残っている歴史的なため池です。

現在は沢渡地区の田畑約13haを潤しており、ここで栽培される米は「久万清流米ブランド」として、愛媛県はもとより全国へ出荷されるなど、高付加価値型農業を行うための礎となっています。

関連情報

久万高原町ホームページ「美川村自然環境保全指定地 赤蔵ヶ池」

<http://www.kumakogen.jp/>

大谷池

(おおたにいけ)



全 景



「えひめ森林公園」に隣接

ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県伊予市

□ため池の特徴

大谷池は、貯水量175万トンを有する愛媛県最大のため池で、伊予市平野部の田畑938haに農業用水を供給しています。

また、「えひめ森林公園」に隣接しており、ハイキングやウォーキングの場として市内外より、多くの人々が訪れています。

緑豊かな溪谷には、渡り鳥を初め様々な野鳥がおり、鳥類愛好家にとって「宝の谷」でもあります。

大谷池のある旧南伊予村は、雨が少なく、度々干ばつの害に悩まされてきました。その農民の窮状を見かね、村長武智惣五郎氏が「成否はもとより天にあり、吾れ死すとも辞せず」という悲壮なる覚悟のうえ、地域の人々とともに度重なる辛苦に耐えて、昭和20年に大谷池を造りました。延べ373,000人が携わった土木工事は、当時としては破格の規模でした。

地元の小学校には築造者の功績をたたえた胸像、大谷池土地改良区には顕徳碑が建立されており、毎年稔りの秋には、多くの住民が大谷池に集って、盛大な感謝祭を催し、その遺徳を偲んでいます。

関連情報

大谷池築造50周年記念誌
大谷池築造60周年記念誌

犬塚池

(いぬづかいけ)

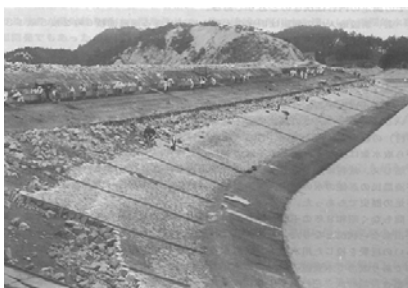


全 景



貯水池

犬塚池改修
(昭和10年)



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県今治市

□ため池の特徴

犬塚池は、玉川地区と新谷地区の水田50haの農業用水として利用されています。また下流の脇池、新谷中池、土居下池、古新谷池および寺前池にも導水され、周囲のため池と併せて効率的な管理が行われています。

犬塚池周辺は雑木林に囲まれ、様々な生物の生息・生育場所となっており、この地域の生態系保全の拠点として重要な役割を果たしています。また、「今治越智地方水源の森」として水源の森百選にも選定されています。

ため池の歴史は古く、元々は今治七代藩主、松平定剛時代に藩政を傾け、寛政7年(1795年)から文化4年(1817年)までの23年の歳月をかけて築造されました。

その後、昭和10年には立花村長越智武を中心としてため池の改修を行い、貯水能力を従来の12倍に広げ現在の姿となりました。また谷山川からの導水路2.73km、幹線用水路8.0kmも整備されました。

池には、四国88ヶ所57番札所栄福寺で飼われていた忠犬にまつわる「犬塚池伝説」や、寛文、享保の大飢饉の時に苦しんでいた農民らを救った「五人主様」「随転和尚」などの話も伝えられています。

関連情報

「今治編年史」

「今治の伝説」

「今治越智地方緑と水の文化史」

「水と緑の文化拾遺」

「森林文化の道(筒井迪夫著)」

鹿ノ子池

(かのこいけ)



全 景



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県今治市

□ため池の特徴

鹿ノ子池は、蒼社川と頓田川に挟まれた土地の水不足を解消するため、寛政11年(1799年)に29年の歳月をかけて今治藩五代藩主、松平定郷公により造られたとされています。

谷を堰き止めて貯水するため池ではなく、他の地域を流れる多岐川から水を引き込む、いわゆる導水路ため池として、当時としては画期的なものでした。

現在は、大野、高市、町谷、松木の4集落を併せて52 haの水田を潤す水源となっています。ため池の管理は4集落共同で行っており、毎年1月から2月にかけては、役員総出で草刈りや水路清掃を行っています。

鹿ノ子池には、鹿ノ子神社と鹿ノ子公園が隣接しており、園芸講習会や竹細工、しめなわ作り等の体験学習など、地域コミュニティ場として、また憩いの水辺空間として活用されています。

関連情報

「今治編年史」

「今治の伝説」

「今治越智地方緑と水の文化史」

「水と緑の文化拾遺」

池之内池（兼久の大池）

（いけのうちいけ（かねさのおおいけ））



全 景



親水整備(ビオトープ)

生き物教室



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県西条市

□ため池の特徴

池ノ内池は、干ばつによって用水確保に悩まされていた800町の水田を200年あまり潤し続け、地域の農業振興に貢献してきたため池で、現在は水稻や野菜を主とする農地95haの農業用水となっています。

近年、湿地ビオトープ、遊歩道などが整備され、地域住民の憩いの場として親しまれています。また、高松地区環境保全会が、池之内池で地元小学生を対象とした生き物教室を開催し、自然とのふれ合いを通して、ため池の大切さを子どもたちに伝えるなど、地域とのかかわりが深いため池です。

築造工事は大がかりなもので、当時の松山藩代官、星の七郎正直の「新成池塘期」には、功役85千人有余を要して寛政3年（1791）に完成し、また池の規模は新築堤防220間、池の周囲850間、池中蓄水約11万8800坪（約70万 m^3 ）であったことが記載されています。

関連情報

水の歴史館(水のエッセイ・西条の水にまつわるお話・兼久の大池)

<http://www.city.saijo.ehime.jp/mizunorekishikan/index.htm>

疏水百選(道前道後用水)

http://inakajin.or.jp/sosui_old/ehime/a/649/index.html

水土里の道ウォーキング

http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/midori/m_walk/course7/093dou/index.html

池田池

(いけだいけ)



全 景



池田池公園

ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県新居浜市

□ため池の特徴

池田池は、奈良時代に書かれた奈良東大寺諸国床々文書の目録で既に古池と称されており、今から約350年前、明暦元年に西條藩によって行われた大改修によって、周辺農地400町歩を潤す農業用ため池となりました。

現在では、かんがい面積120haを有し、船木地区の核となる農業施設として重要な存在となっています。

池田池を中心とする公園整備が行われ、市民の憩いの場となっています。公園では、毎年2回、地域住民等の団体が集まり公園内の花植えを行うなど、地域住民の交流の場となっています。

また春は桜、夏は菖蒲等風光明媚な場所であり、圏域内外から多くの観光客が訪れる名所となっています。

関連情報

中山池

(なかやまいけ)



全 景



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県宇和島市

□ため池の特徴

中山池は、宇和島市三間町の60haの農地の重要な水源となっているため池です。三間町は古くから米どころとして知られ、現在では「三間米」としてブランド化されるなど、池は地域農業の発展に大きな役割を果たしています。

また、中山池は野鳥の楽園となっており、チュウサギ等の希少種が確認されているほか、冬季に鴨が飛来する池として重要な役割を果たしています。

中山池を核とする中山池自然公園は、「憩いの場」「交流広場」等からなり、人と自然が触れ合える場として毎年「コスモス祭り」が開かれ、地域住民に親しまれています。

池の築造は、黒井地村(現三間町黒井地)の庄屋太宰遊淵が提案し、村人の賛同と宇和島藩庁の許可を得て寛永4年(1627年)に着工しました。延べ45,000人の労働力と、15,000両の経費をかけ寛永7年に完成し、これにより最下流域の宮野下、迫目地区へ用水の安定供給が可能となりました。

難工事であったため、遊淵が中山池の横の山(現在、遊淵のお墓がある。)に座して工事の采配に当り、また鉦を打ち鳴らしながら、お経を唱えて工事の完成を祈ったという伝説が残っています。

関連情報

宇和島市観光協会HP
三間町特別栽培米生産組合HP
愛媛の土地改良史(発行 愛媛県)

<http://www.uwajima.org/>
<http://www.mimamai.com>

飼谷池

(かいたにいけ)



全 景



ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県四国中央市

□ため池の特徴

飼谷池は約300年前、江戸時代寛文3年に幕府が造ったものとされ、以来地域の農業振興に大きな役割を果たしてきました。現在は22haの水田を潤しています。

ため池をめぐる地域の活動として、地元製紙会社OBやJA女性部らで構成する市内ボランティアグループがサギ草2000株を植えています。

植栽は平成16年に始まり、今年で6年目となっており、飼谷池周辺の自然を活かした「森と湖畔の公園」菖蒲園で、白鷺が翼を広げた可憐で清楚な花を咲かせています。

また、二羽の丹頂鶴が羽を広げて寄り添った姿をイメージした斜張橋などと併せて、魅力ある景観を醸し出しており、地域の人々の憩いの場となっています。

関連情報

堀江新池

(ほりえしんいけ)



全 景



中ほどにある波止場(中土手)

ため池の概要

□ため池の所在地

愛媛県松山市

□ため池の特徴

堀江新池は、松山市最大のため池で7haの水田を潤しています。

池の中ほどに波止場(中土手)がある珍しい形をしており、これは池があまりに大きいため、大雨の時に生じる波立ちで堤体が壊されるのを防ぐための土手で、非常にまれなものです。

また、池中央の浮御堂は、豊かな水と緑の水辺空間を体感することができる「癒しの空間」となっています。

堀江小学校、PTA、公民館が一体となって学社融合事業を展開し、農業体験などを通じ、農業の大切さと水や土に触れることで、故郷に愛着を持つ心を養う取り組みが行われています。

池を築造したのは、江戸時代後期の庄屋門屋一郎次でした。その昔、堀江村では、田畑への水は権現川、郷谷川などの水を利用していましたが、その水だけでは常に不足がちであり、さらに数年に一度は干ばつにあうといった状況でありました。

門屋一郎次は、この状況を憂い根本的に解決するためには、大規模なため池の築造が必要であると考え、村民にその必要性を説き藩にも働きかけました。こうして村民が一丸となって作業に励み、3年の歳月をかけて、1835年に藩内最大の堀江新池が完成しました。

関連情報